

Toho

東邦キャンパス

Campus



愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

vol.139

2024年(令和6年)1月発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#)

特集1

創立100周年記念式典を挙行

特集2

100周年記念で「中京×東邦」戦

特集3

100周年記念事業 続々と



学園創立100周年記念式典が12月9日、来賓、学園関係者ら500人が参加し名古屋マリオットアソシアホテルで開催されました。



2024年1月1日、米国カリフォルニア州パサディナ市でローズパレード2024が行われ、TOHO MARCHING BANDが上位3バンドの一つとして堂々のパレードを行い、喝采を浴びました。

目次

年頭所感



「新たな100年」へ 向けて

学園理事長
榊 直樹

学園は2024年春、創立満101周年に入り、「新たな100年」へ踏み出します。1923(大正12)年の開校以来100年間に巣立った生徒は、東邦商業学校、東邦中学校、東邦高等学校から約4万9300人、学生は東邦学園短期大学と愛知東邦大学で約1万7100人です。さらに高校と大学には計約3300人が在学中です。

新年は早々に大地震が能登半島を襲い、多くの方が犠牲となり、避難を強いられています。新たな100年には、猛々しさが募る自然災害だけでなく、予測を越す少子化による淘汰の環境が待ち構えています。私たちが教育の幹に据えるのは、やはり「建学の精神と校訓」です。創設者・下出民義先生の足どり、当時の時代に触れながら、揺るぎない価値を改めて確認します。

幕末の大阪・岸和田藩で生まれた下出先生は、幼少期の学びは漢籍の素読でした。数えの15歳で大阪泉州の小学校を独りで任されました。中学2年生が小学校長を務める、今ではあり得ない姿です。教師を務めながら、夢は太政大臣(現在の総理大臣)になること。そのために法律学校へ通ったことが縁で、当時の最大のエネルギー源・石炭の取引会社に請われて、名古屋に移ります。ここで実業家の福沢桃介氏と親交を深め、一緒に中京地域の電力、鉄道、製鋼など産業の基盤を築いていきます。

実業家として痛感した人づくりへの思いが、5年制の東邦商業学校の創設へ結実します。先生は「近代経済の根本基調は信用にあり、経済社会人は信用ある人でなければならない」と力説し、建学の精神に『真に信頼して事を任せうる人格の育成』、校訓に『真面目』を据えました。

学園創設の前夜は、「坂上の雲」という言葉に象徴されるように、日本が世界の列強に肩を並べつつあるという自信と驕りが、輻輳した時代でした。さらに、第一次大戦がもたらした空前の好景気と、その後のどん底不況、スペイン風邪による社会不安が追い打ちをかけ、財閥の頭領・安田善次郎、首相・原敬が相次ぎ

刺殺される荒みがちな世情でした(暗殺者の擁護論さえ起きた)。だからこそ、『真に信頼できる人格』を建学の精神、『真面目』を生徒の心構えとして求めたに違いありません。

真の信頼を培い 多様な価値を繋ぎ合う 「架け橋」役に

世界は1989年に冷戦構造が崩壊し、柔らかな光が差し込みました。でもほんの一時期で、米国への同時多発テロが21世紀を再び亀裂と対立の時代に引き戻し、新型コロナウイルスのまん延が人々の心に猜疑心を呼び覚ました。さらに他国の領土を武力で奪い取ろうとするウクライナ侵攻、ガザ地区における情け容赦ない戦闘です。理想論と言われようと、互いに理解し合い信頼し合うには、「真に信頼される人格」を培っていくことです。真の信頼を培った東邦の卒業生が、多様な価値を繋ぎ合う「架け橋」役に、さらに成長していくことを願って止みません。

そのような折、高校生徒会の活動が「なごや平和の日」制定へ市政を動かしました。昭和19年12月13日、東邦商業学校の勤労働員先だった三菱発動機名古屋製作所がB29に爆撃され、生徒18名と教員2名が犠牲となりました。戦後は、痛ましい歴史を教訓に、平和教育を本校教育の柱に据えてきました。この積み重ねが、東邦高校生徒会による「空襲慰霊の日」制定を求める請願の提出となり、かねてから制定を願っていた空襲被害者団体からの要望を具体化させる契機になりました。「なごや平和の日」は、今春の名古屋市議会で名古屋城が爆撃・炎上した5月14日に決まる予定です。

東邦高校は2020年度から「真の信頼」をもとに、『目指す生徒像』というスクールポリシーを掲げて、「自分で考え自ら行動する」「他者と共に歩む」「強い心で挑戦する」を生徒に求めています。平和の日制定への生徒会の活動も、この生徒像そのものだと称えましょう。

進取の精神を大切に歩もう

学園の1世紀は、極めて多くの方々に支えられた歴史でもあります。中でも戦局悪化で国が商業教育無用論を唱えて募集停止に追い込まれた昭和19年、分校として身を寄せたのは現在の大同学園様でした。「弟分」

に当たる学校ではありましたが、大同学園様の助けなくして、誇りある100周年は迎えられなかったのです。

また、教職員はリベラルな雰囲気のもと、女性の社会参画や自立、国際理解教育など先進性を尊び、進取の精神を大切に歩んできました。東邦高校では、生徒像の育成を具現化する「世界探究科」を2025年にスタートし、探究学習の拠点学科として、普通科、美術科と共に、東邦教育の柱となる学科にしていきます。

愛知東邦大学では、思考力・判断力・表現力を育て、どんな社会でも自ら人生を切り拓いていける創造性を涵養するため、AI・ロボットには果たせない役割を十分に考え、AI時代にも通用するコミュニケーション力

と共感力を育成する方針です。デジタルコンテンツを活用し、多様化する人々の認知・行動変容に主導的に対処できる人材を育てるため、2025年度から経営学部
に新学科を設けます。

100年間に関わって下さった全ての方に深く感謝します。そして、何より学びの場の主役として歴史を重ね、真面目でさわやか、はつらつとした校風を培ってくれた生徒と学生の皆さんに、心からお礼申し上げます。

進取の精神を持ちつつ、平和で互いが真に信頼できる社会を築いていくため、新たな100年を歩んでいく決意です。

会場を魅了した「TOHO未来レター」特別ステージ



参列者を魅了した大田さんと奥村さんの舞台

次ページで特集している記念式典で、特別ミニステージとして上演された「TOHO未来レター」は、東邦商業学校が開校し、ラジオの全国放送が始まった大正末期の名古屋が舞台。東邦商業学校に通う翔と祐育子がラジオの声と対話します。学園の歴史に耳を傾け、映像で紹介される100年後の東邦学園の姿に驚愕します。戦争の惨劇を乗り越え、希望に満ちた新時代とともに発展する東邦

学園の歩み。

現代の東邦学園の生徒・学生たちからの言葉を紡ぎ、曲を付けて頂いた「TOHO未来レター」。2人は「未来への手紙」を高らかに歌い上げます。参列者は大田翔さんのテノール、ソプラノの奥村育子さんの歌唱力とフリーアナウンサー平野裕加里さんの朗読を通して紹介された東邦学園100年の歩みに引き込まれました。

特集 1

創立100周年記念式典を挙

「建学の精神と校訓は揺るぎない価値」 榑理事長らが新たな100年へ決意

東邦学園の創立100周年記念式典が12月9日、名古屋マリOTTアソシアホテルで開催され、参列者500人が100周年を祝いました。会場は多くの来賓のほか東邦学園の旧教職員らも含めた参列者たちで埋まりました。



式辞を述べる榑理事長



あいさつする大村知事(左)と河村市長



参列者の中には大学、高校の懐かしい顔ぶれの旧教職員の皆さんの姿が目立ちました

午後2時から始まった式典では主催者を代表して榑直樹理事長が式辞を述べました。榑理事長は学園が最も大切にしている建学の精神「真に信頼し事を任せよう人格の育成」と校訓「真面目」について語り、「これからも揺るぎない価値だと認識し、新たな100年へと歩む決意とします。学園は多くの方々に支えられてきました。学びの場の主役として歴史を重ね、真面目でさわやか、はつらつとした校風を培ってくれた生徒と学生の皆さんに心からお礼申し上げます」と述べました。

来賓を代表して盛山正仁文部科学大臣の祝辞が代読されたのに続き、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長が登壇。河村市長は「東邦商業学校は戦時中、勤労働員中の生徒ら20人が空襲の犠牲になりましたが、東邦高校の生徒たちの訴えで、名古屋市は『平和の日』を制定することになりました。建学の精神が動かした生徒の皆さんの行動だと思います。高校生が

社会を動かしたちょっとない例です」と生徒たちの行動を称えました。日本私立中学高等学校連合会の吉田晋会長の祝辞も代読で紹介されました。

続いて愛知東邦大学の鶴飼裕之学長、東邦高校の藤本紀子校長があいさつ。鶴飼学長は「愛知東邦大学は、変革の時代において、学園創立の精神を受け継ぐという確固たる矜持をもって次の100年をめざして進化して参ります」と語りました。藤本校長は「河村市長様からご紹介いただいた『平和の日』制定のきっかけとなった生徒会活動は、自治と真面目を伝統とした本校の『目指す生徒像』そのものだと思います」と述べました。

この後、第7代理事長(2003年4月~2008年3月)を務めた伊藤時雄氏に感謝状、初代学長の丸山恵也氏に名誉学長の称号が授与されました。(丸山氏は体調不良で欠席)

「フレンズ・TOHO」神野会長の発声で祝宴

特別ミニステージ(P3)の後、休憩を挟んでの祝宴は、東邦学園の支援組織「フレンズ・TOHO」の神野重行会長(三重産業株式会社代表取締役)の発声で乾杯。東邦高校の海外提携校4校、愛知東邦大学の海外提携校6校からのメッセージ映像が紹介されました。米国で元旦に開催される「ローズパレード」参加のため渡米する「TOHO MARCHING BAND」も迫力ある演奏で祝宴を盛り上げました。

司会進行は東邦高校50回生(1999年卒)で学園職員の池田暁生さんとフリーアナウンサーの平野裕加里さんが務めました。



「フレンズ・TOHO」
神野重行会長の発声で
祝宴がスタート



祝宴を盛り上げた「TOHO MARCHING BAND」の演奏

飛び交う祝福の声 再会喜び合う卒業生や旧教職員



式典会場では学園内外からの参列者たちの祝福の声が飛び交いました。高校、短大・大学の卒業生や旧教職員らの姿も見られ、再会を懐かしむ声が相次ぎました。



受け付け開始前、早々に姿を見せた1953年東邦夜間商業高校卒(金城商業14回生)の奥村秀二さんは91歳。「案内が届いてすぐに出席の返事を出しました。記念すべき式典に出られて感無量です」

と開会前のロビーで語りました。



愛知東邦大学人間学部人間健康学科を2017年に卒業し筑波大学大学院に進学した波戸謙太さんは筑波大学体育系特任助教。

東邦高校硬式野球部コーチの木下達生教諭とは愛知東邦大学時代の同期生でした。



東邦高校が夏の甲子園準優勝を果たした時の同期生3人。左から学園硬式野球部の森田泰弘総監督、東邦会の大河哲男会長、元NHK野球解説者の大矢正成さん。



再会に話が弾む元経営学部長の岡部一明氏、中山孝男経営学部教授、津田正夫元経営学部教授(左から)。



歴代女性学部長が勢ぞろいしました。左から後藤永子(教育学部)、澤田節子(人間健康学部)、古市久子(教育学部)の元学部長と現在の堀篤実教育学部長。



来賓の日本私立大学協会常務理事で事務局長の小出秀文氏(左)と名城大学の立花貞司理事長(右)から祝福を受ける榊理事長。



東邦学園と同じ1923年創立でともに100周年を迎えた梅村学園からは梅村清英理事長(右から2人目)、中京大中京高校の伊藤正男校長(右)ら4人が参加。



司会進行を務めた池田さんと平野さん。



特集 2

100周年記念で「中京×東邦」戦 バンテリンドームの1万人が祝う



森田監督率いる東邦OBチーム



半田監督率いる中京OBチーム

東邦高校(東邦学園)と中京大中京高校(梅村学園)がともに迎えた創立100周年を記念した「オール中京・オール東邦 野球大会」が11月23日、バンテリンドームナゴヤで開催され、スタンドを埋めた生徒や卒業生ら約1万人が100周年を祝いました。



開会式であいさつする榎理事長。右は梅村理事長



ネット裏から大型画面であいさつする大村知事

開会式では榎直樹理事長と梅村学園の梅村清英理事長があいさつ。榎理事長は、「両学園の100年を支えてきた大きな柱の一つは野球でした。投げて、打って、守ってという単純なスポーツですが、100年間、私たちを勇気づけ、鍛え、成長させてくれました」と学園の発展に果たした野球の意義を強調しました。

野球大会はOB対抗戦と現役対抗戦の2試合が行われました。午前10時開始のOB戦の監督は、東邦は森田泰弘・東邦学園総監督が、中京は半田拓也・中京大監督がそれぞれ25人のメンバーを指揮しました。

試合は東邦が3-2のリードで迎えた7回裏、中京

が押し出して同点に追いつき、さら3点を加えて6-3と逆転勝利を決めました。5回終了時には愛知県の
大村秀章知事もネット裏に姿を見せ、あいさつし、球場大型画面で中継されました。

OB対抗戦終了から現役対抗戦開始までの間、両校放送部による両校野球部史の紹介、東邦高校のマーチングバンド部とバトントワリング部、中京大中京高校のチアリーディング部とダンス部演舞などのアトラクションが行われました。

現役対抗戦では先攻の中京大中京が初回到3点を奪い先制。3、5、7回にも1点ずつを加え6-0で東邦高校を制しました。

閉会式では両校生徒会役員からお礼の言葉が述べられた後、両校代表選手があいさつ。東邦高校の林里樹選手(2年)は「素晴らしい大会を開いていただきありがとうございました。これからも両校とも、切磋琢磨し合いながら、愛知県の野球を盛り上げていけるよう頑張っています」とあいさつ。中京大中京高校の佐古響次朗選手(2年)も「愛知の野球少年たちのあこがれであるこの2校が、お互いに創立100周年を記念する場所に共に集いました。愛知の高校野球、日本の高校野球をこれからも引っ張っていけるよう互いに良きライバルとして切磋琢磨していきましょう」と力強く語りました。



試合前に円陣を組む東邦OBチーム

盛り上がったOB対抗戦



東邦・中京の甲子園優勝旗を一般公開



3塁側の東邦応援席からは盛んな声援

現役対抗戦は応援が一段と盛り上がりました



東邦高校のマーチングバンド部演奏には大きな拍手

東邦高校バントフリンク部も熱演



現役対抗戦でセレモニアルピッチをした両校の代表生徒たち

閉会式であいさつする東邦高校生徒会長の西岡莉々子さん



高校野球ファンでにぎわう公開会場(中京大中京高校玄関ホール)

夏の深紅の優勝旗(中京)7本、春の紫紺の優勝旗(東邦)5本——。戦前から高校野球強豪として知られる中京大中京高校と東邦高校が春夏の甲子園大会で授与された優勝旗(レプリカ)の一般公開が11月18、19日、両学園の100周年記念イベントとして名古屋市昭和区の中京大中京高校で行われました。2日間で442人の野球ファンが来場しました。

中京大中京高校は夏の甲子園大会で全国最多となる7度の優勝を果たしており、深紅の優勝旗が展示されました。戦前の中京商業時代の1931(昭和6)年~1933(同8)年に達成した大会3連覇を記念した優勝旗も初めて一般公開されました。

春のセンバツで全国最多となる5度の優勝を誇る東邦高校からは、戦前の東邦商業時代に初出場初優勝を飾った1934(昭和9)年の第11回大会から平成最後の大会となった2019年の第91回大会までの紫紺の優勝旗5本が展示されました。

公開開始とともに高校野球ファンたちが次々に姿を見せました。元東邦高校球児という男性(50)は、「中京と東邦の優勝旗を一緒に見る機会はないのでぜひ見たかった」と両校の優勝旗に見入っていました。父親が東邦高校野球部OBだという中京大中京高校2年の女子生徒は「仕事で来られないお父さんに見せてあげます」とスマホのシャッターを押していました。

来場者に優勝旗にまつわるエピソードなどを解説した中京大中京高校の渡邊眞佐信さんは、「反響の大きさに驚いています。春、夏ともに全国最多の優勝回数を誇る中京、東邦の優勝旗がそろって一般公開される機会は高校野球ファンにとってはよほどうれしい企画だったのでしょうか。ご協力いただいた東邦高校さんに感謝です」と話していました。



現役対抗戦を終えて記念撮影に臨んだ両校の選手と運営を担った生徒たち

特集 3

100周年記念事業 続々と

世界で活躍する奈良美智さん招き 美術科が記念講演会

美術科 加藤 広士



2023年7月11日(火)東邦学園100周年および美術科30周年を記念し、世界的に活躍されている画家・彫刻家奈良美智さんの記念講演会を本校創作棟にて開催しました。当日の13時頃、創作棟1階油絵スペースの可動壁は最大限に拡張され、150脚の椅子が整然と並び、プロジェクターやマイクの動作を確認すると心持ち静かな緊張感に包まれました。

13時半に奈良さんご本人の運転で颯爽と来校いただき、大学時代に奈良さんの先輩であり講演会実現の立役者である本校の岡本増吉先生と積もる思い出話を談笑され、14時に会場入場とともに拍手喝采の中で岡本先生の紹介により待望の講演会が始まりました。奈良さんの常に穏やかで飾らない語り口と機知に富んだ話題は会場の興味関心と笑いを誘い、ご本人の生い立ちから現在の制作活動に関するお話まであつという間の2時間でした。講演直後、生徒たちに対して「自分の内側から出てくるものを大事に」など全ての質問に丁寧に答えていただき、未来ある生徒たちの制作の指針として、また生徒たちの制作と意欲をサポートする教職員においても大変貴重な時間となりました。その後の2学期1年生油絵授業の静物課題では、壁面に奈良さんの展覧会ポスターが掲示されており、多くの生徒たちに作品模写を促したのは岡本先生の粋なはからいでしょう。末筆ながら、奈良さんにはとてもお忙しい中ご来校賜り深くお礼申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご多幸を心より祈願いたします。

美術科卒業制作展、 美術科30周年記念展を終えて

美術科学科主任 前橋 瞳

2023年度美術科3年生卒業制作展「第31回未来の

芸術家たち展」が11月14日から19日に愛知県美術館Gギャラリーにて開催されました。総勢1598名のお客様にご来場とご高覧を賜り、誠にありがとうございました。作品の搬入、制作者によるギャラリートークの実施、愛知県立芸術大学の岡田真治先生、猪狩雅則先生、高橋伸行先生、本田敬先生によるご鑑賞とご講評、搬出まで、盛況のうちに無事終えることができました。

また、東邦学園100周年記念事業の一環として美術科創立30周年記念展もE・Fギャラリーにて同時開催し、各方面で作品発表し活躍している美術科卒業生36名、美術科教員8名、元教員3名、合計47名の作品展



美術科30周年記念展の作品の数々

示もしました。ここでも作品としての質の高さがあると各方面からご好評いただけました。生徒と同じフロアで実施できたことはとても有意義であると感じました。

卒業制作は、制作者の今までの集大成であり、これからの原点となる作品です。長い制作期間中、高い緊張感と不安や迷いを伴いつつも努力し、各自の理想の実現に挑戦する作品が並びました。これを糧に、制作者指導者ともに次に向けて邁進いたします。保護者の皆様、教職員の皆様には、多大なご協力を賜りました。深く感謝を申し上げます。

日進グラウンドで「なつまつり」

女子サッカー部コーチ 山下 和華

東邦学園100周年記念事業として、女子サッカー部では8月6日(日)に「なつまつり」を日進グラウンドで開催しました。

女子サッカー部と下部組織TOHO Ladies. Football Academyは、これまで地域貢献活動の一環としてサッカー教室や清掃活動を行ってきましたが、このような



思い出となる企画も盛りだくさんだった夏祭り

大規模なイベントは初めて。集客や運営の点で不安もありましたが、日進市役所様や愛知牧場様などの近隣の企業・団体や学園職員の皆様のご協力もあり、400人以上の方に来場いただき、夏の思い出をともに作る事ができました。

コロナの影響で地域の皆様とお会いできずにいましたが、直接お会いし、日頃の感謝を伝える機会となりました。今後も定例化し、女子サッカー部・TOHO Ladies. Football Academyの活動を知っていただき、応援されるチームを目指します

100周年記念行事 7th TohofamilyDanceClub DANCE PERFORMANCE “懸ける 駆ける 翔ける”を終えて

ダンス部顧問 伊藤 恵子 久保 久枝
大橋 由紀 秋山 愛斗

おかげさまで2023年8月、日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにて動員約700名の方々と共に自主公演を終えることができました。

創立100周年の良き年に創部30周年を迎えることができたのは、創部より繋いできた部員達の懸ける熱意と周り方々の理解と協力あればこそだと思っています。支えて下さっている全ての方々に感謝しかありません。生徒の声で同好会から始まり、ダンス部となり、何よりもダンスを通して“東邦”で繋がった一人一人がダンスを愛する家族として、いつまでも“One for All, All for One.”の志で繋いでいけるようお願いを込めて創部当初のTDCからFamilyを入れてTFDCとしました。現役部員82名、卒業生はじめ関わる全てのSTAFFの方々と共に創り上げた舞台に各界で活躍する卒業生ゲスト・コラボレーションも実現し、会を盛り上げてく



大会当日の舞台を盛り上げたTFDCの集合写真

れました。

心より御礼を申し上げます。今後ともダンス部の応援、よろしくお願いいたします。

「Nの遺伝史 一名古屋を創ったエライ人」 で本学園創立者が取り上げられました

2023年12月10日(日)、中京テレビで、「Nの遺伝史一名古屋を創ったエライ人」が放映されました。

この番組は、「教科書には載っていない」名古屋を舞台に活躍した偉人たちのエピソードから、成功の秘訣を学ぶ知的エンターテインメント番組です。

スタジオに集まったのは、名古屋にゆかりのある若者男女4人。その中には、東邦高校を卒業した石川昂弥君と河村花さんも含まれていました。

ナビゲーターは、名古屋出身の林修氏。林氏が、CoCo壱番屋創業者の宗次徳二氏、テレビ塔を設計した内藤多仲氏らの他、多方面の実業界で活躍もされた本学園創立者下出民義氏の4人を名古屋の偉人として取り上げ、再現ドラマで楽しく・わかりやすく、成功の秘訣を紹介されました。

皆様はご覧いただけましたでしょうか。

「なんでもチャレンジコンテスト」 高校・大学から56組がエントリー

東邦学園理事 佐々木 泰裕

前号でもご紹介した、本学の学生・生徒が自分で決めた目標に挑戦する「なんでもチャレンジコンテスト」。エントリーは、大学生38組、高校生18組の計56組、1人での応募から、最大38人のグループでの応募もありました。約半年間チャレンジの活動報告をもとに審査員総勢11人で審査を行い、表彰者を決定します。発表は1月中旬です。

チャレンジ内容は、英検準1級、日商簿記検定2級、日本語教育能力試験、宅地建物取引士試験、マシンピラティス、NSCA-CPT、金融リテラシー検定といった試験合格・資格取得を目指すもの、異文化交流、赤池まち灯り、献血協力と啓発、マラソン完走者全力サポート、フードロス削減、名古屋の未来に政策提案、リサイクルの輪、ゴミ拾いチャレンジと、地域や社会への働きかけを目指すもの、トーク甲子園出場、展示作品制作といった独自の目標と、実に多彩です。ギネス記録挑戦なんていうものもありました。

本誌がお手元に届くころには審査結果が発表されています。

Ⅱ 高校／行事・クラブ活動

START with TOHO～百年百彩～

生徒会顧問 水谷 陽子

2023年の学園祭テーマは「START with TOHO～百年百彩(ひゃくねんももいろ)～」でした。

コロナ禍で危機に瀕した学園祭(自主活動)の復活を、この東邦高校から発信していきたいという思いが、また、副題には、東邦学園が創立100周年であること、各人の個性を百彩(色)にたとえ、互いの違いを認めあいながら、学園祭を成功させるという決意が込められていました。一般招待制度、模擬店、PTA伝統の東邦きしめん、オープニングセレモニー等も復活し、かつてを偲ばせる一方、現役生達は、新鮮さを持って受け止めていました。



ミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」のワンシーン

100周年特別企画としては、太平洋戦争をテーマにしたミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」を上演しました。昨年の冬に、河村市長に「名古屋空襲慰霊の日」の制定を求める請願書を提出してから、東邦高校生徒会では、平和について考えてきました。その一連の活動を通し「多様性を認めるところから平和が始まる」ということを学びました。戦後78年経た現在でも、身近なところ、世界で、争いは未だ続いています。互いの違いを認めあえないところから、争いは起きるのかもしれませんが、しかし、平和を願う気持ちは同じです。この企画も、初めは互いの意見の相違、様々な困難がありましたが、最後には皆で力を合わせ演じる事ができ、まさしく平和を体現することができたと感じています。そして、今年度の学園祭テーマにふさわしい企画であったとも感じております。今年度の学園祭が盛大に開催できたことを、ご支援、ご協力をいただいた皆様には、深く感謝を申し上げます。

2023年度「平和だなあ…に感謝」 (沖縄修学旅行について)

2年学年主任 小畠 大介

2023年11月、普通コースと文理特進コースの計17ク

ラスは沖縄へ修学旅行に行き、国際探究コースはシンガポール、美術科はパリに研修旅行へ行きました。コロナインフルエンザがまだ流行している中、沖縄の修学旅行では、当日欠席も早退者も出すことなく、無事終わることができましたのは、保護者の皆さまをはじめ、関係各所の皆さまの支えがあってこそと、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、生徒には「①戦争とは何か? ②平和とは何か? ③今、感謝すべきことは?」を考えるよう、3つの課題を課しました。ひめゆりの塔、嘉数高台公園、沖縄平和祈念公園を見学し、本当に真摯に向かい合いながら追体験をする生徒達の姿は、今でも目に焼き付いています。

残りの行程では、マリン体験、むら咲村、タクシー研修、首里城、国際通りを楽しみ、思い出深い4日間になったと思います。

日常に溢れる平和は、戦争で亡くなられた人達の犠牲と、生き残った人達の熱い魂のリレーの元に成り立っていることへの、敬意と感謝の心を決して忘れず、生徒一人ひとりが、平和を語り継ぐ大切なリレー選手となってくれることを確信できる修学旅行となりました。ありがとうございました。



平和祈念堂のセレモニーで、平和宣言を行う生徒代表

2年生国際探究コースシンガポール研修

国際交流室長 国際探究コース統括責任者 伊藤 保憲



11月1日～5日のシンガポール研修

「工事現場で働く労働者はインド人かな？南アジア系の人が多そうだ」「高校生との交流の場でお菓子をプレゼントしたら、宗教上の理由で貰ってもらえなかった。衝撃だったけど、勉強になった」「多文化共生と言いながら、チャイナタウンやリトルインディア、しっかりと区別もされている。でも互いを認め合っている」。これらは、シンガポール研修に参加した2年生国際探究コースの生徒たちが気づいたことや学んだことのほんの一部です。マリーナベイサンズなど華やかなイメージを持つシンガポール。しかしその華やかさには影があり、華やかさを支えている労働者や貧困層がいます。

シンガポール研修では日本大使館を訪問し、シンガポールと日本の関係についてのお話のみならず、大使館で働いている人がなぜ大使館で働くことになったのかなど、興味深いお話を伺いました。シンガポール国立大学を訪問し、学生と一緒に模擬国連にチャレンジ。持続可能なファストファッション産業の発展について、英語で議論を交わしました。また、現地の高校生との交流では、新しい発見と学びを通して、友情を育むという国際交流の原点のような体験ができました。

国際探究コースの学びの柱に多文化共生というキーワードがあります。それは、おそらく多様な生き方を尊重できる社会だろうと思います。シンガポールで見たこと、考えたことが生徒たちの生き方にどんな意味をもたらすのか。楽しみに見ていきたいと思います。

全校生徒 約2000人 避難訓練 4年ぶりに実施

生活指導部副部長 田植 由衣子

本年度、11月22日に全校規模で避難訓練を実施しました。訓練は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実に4年ぶりの実施となりました。この防災訓練では、震度5～6の地震が発生し、化学実験室から火災が発生したという想定で行いました。

今年度、本校のクラス数は51クラスで、近年では最多のクラス数となります。災害時は、1900人近くの生徒と100人程度の教職員、合わせて2000人近くが避難することになります。災害時は、円滑かつ迅速な避難が求められます。これまでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンラインによる防災教育が主で、生徒たちは、避難訓練を実際に体験することができませんでした。避難訓練だけでなく、始業式や学年集会など、オンラインで過ごしてきたことにより、大人数での集合に不慣れなため、今回の避難訓練のグラウン

ドでの集合に時間がかかるのではないかと予想しておりました。

しかしながら、今回の訓練では、全校生徒が集合するまでに要した時間は、12分47秒で、目標であった15分のタイムを大幅に切りました。クラス数が現在よりも少なかった時代よりも、迅速に行動できたと言えます。生徒たちは避難訓練実施の意義を認識し、行動することができました。今後、様々なシチュエーションでの訓練で、防災意識を更に高めるようにしていきたいと考えています。



4年ぶりに実施された訓練

今年度の中学生向けイベントについて

広報企画室室長 平上 純一

夏休みに行った「東邦キャンパスデー」の授業体験は、2日間7講座490名の募集が1週間で満席となり、また部活動見学は700名を超える申込みがありました。授業体験は大変好評で、先生方の魅力と授業の面白さを中学生に伝えることができました。部活動見学でもクラブの生徒を始め、誘導を担当した生徒会・文化祭総務の協力により、明るい東邦生をアピールすることができました。ご尽力くださった先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。



授業を体験する中学生たち

2学期に行った最も大きな中学生向けイベントであ

る学校説明会では、2日間で中学生と保護者を合わせて1300名の申込みがあったため、初めて本館2階の普通教室12部屋を会場としました。主に渉外委員の先生方が各教室での対応や会場の誘導にあたり、校長先生の講話動画を視聴して本校の教育方針、学科・コースの教育内容を伝える形式をとりました。説明会終了後のアンケートから、参加者の80%以上から「良かった」と回答があり、校長先生の講話が中学生とその保護者に的確に伝わったことが実感できました。しかし、「動画ではなく、教職員が直接対面で説明した方が良い」というご指摘が中学生、保護者だけではなく、渉外委員の先生方からもありました。真摯に受け止め、来年度はさらに中学生やその保護者に本校の魅力が伝わる学校説明会にしたいと考えております。

無農薬米づくり

人間健康コース統括責任者 木下 達生



東郷町で行われた田植え

2023年度の間人健康コースは、総合探究の時間に東郷町と農家さんと協力して無農薬で米づくりに挑戦した。4月に田起こし、5月に田植え、10月に稲刈りを行った。2月には収穫したお米を食べる予定になっている。

1971年、赤萩校舎移転とともに野球部専用グラウンドは東郷町へ移ることとなった。以来50年以上、地元の方に支えられて活動することができている。東郷町の無農薬米は地元の小中学校の給食に使われている。いわゆる地産地消の農作物である。無農薬の米づくりは、害虫や雑草の問題が多く、その作業の大変さから行っている農家は少ない。4月の田起こしも1年生35名で参加したが一反耕すのに2時間かかった。5月、10月には1、2年生合同(74名)で参加し、1株で茶碗一杯分のお米になる事を学んだ。1株も無駄にしないように田植え、収穫する姿勢がとても印象的であった。

今後も校内にとどまらず産学官連携を意識した活動

を続けていきたい。

勝つこと、勝ち続けること

空手道部顧問 二村 智代

空手道部は5月に開催されたインターハイ予選で敗退し、新チームとなり愛知県新人大会において男子団体組手優勝、女子団体組手3人制優勝、個人形、組手でも優勝することができ、東海選手権大会の出場を決めました。東海選手権大会は3月に行われる全国選抜大会の予選となっており厳しい戦いを乗り越え男子団体組手3位、女子個人形3位になり全国選抜大会の出場を決めることが出来ました。この結果は多くの先輩方のお力添えをいただき、出せたものだと思っております。ここで満足せず、強い気持ちで全国の舞台で戦えるように努力していきます。

空手道部は創部50周年を迎えました。いつも多くの方にご支援いただき活動できています。本当にありがとうございます。さらなる成長を続けていきたいと思っておりますので今後とも宜しくお願い致します。



創部50周年の空手道部

パソコン甲子園を終えて

情報処理部顧問 山本 俊秋

情報処理部では3年美術科と2年普通科文理特進コースの2名のチームが、全国高等学校パソコンコンクールのモバイル部門の本選に出場しました。

この部門はチームで0からAndroidアプリ開発を行うもので、その企画力やプロデュース力、アピール力が問われます。予選は通過できましたが、共同でのアプリ開発は初めてだということもあり、制作は難航を極めました。また、美術科は卒業制作、文理特進コースは9限授業や補習により、完成までに十分な時間を



本選で発表する情報処理部員

確保することは難しい状況でしたが、チームで解決策を探り合い、本選ギリギリまで熱意をもってアプリ開発に傾注し、なんとか完成にこぎ着けることができました。

入賞は逃したものの、全国屈指の名だたる強豪校と肩を並べることができ、誇りに思います。

これからも情報処理部では、部員が幅広い技能を、楽しみながら習得していけるような活動をしていきます。

応援ありがとうございました

2年D組 岡野 莉央



全米オープンジュニアチャンピオンシップに出場した岡野さん

私は幼少期に脊髄損傷で車いす生活になり、小学3年生で車いすテニスと出会いました。

昨年は春から準備を始め、単身での海外遠征にチャレンジしました。6月クロアチアからスタートし、ヨーロッパ・南米・オセアニアの計5カ国を転戦。単身の

ため言語の壁や食事・環境の変化など大変なこともありましたが、念願だった海外選手と対戦し、ダブルスでは様々な国の選手と組み優勝することができ、本当に素晴らしい経験になりました。

その後は国内大会にも出場し着実にランキングを上げ、テニスの4大会である「全米オープンジュニアチャンピオンシップ」への出場が叶いました。格上の相手と対戦し初戦ストレートで勝利し、ベスト4という成績を残すことができ、選手としての自信になりました。先日行われたジュニア選手権では準優勝し、今年5月にトルコで行われる世界国別選手権のジュニア日本代表に内定しました。

校長先生をはじめ応援してくださる方々に勝利で恩返しができるように今後も頑張っていきます。

東邦らしさ

ハンドボール部顧問 谷 浩充

11月、新人体育大会ハンドボール競技名北支部予選が行われました。新チーム初の公式戦、選手の多くが高校から競技を始めることもあり経験不足の上、コンビネーションにも不安を抱えての大会入りでした。今大会一つの目標としていた準々決勝では、大事な局面でのミスが響き僅差で敗戦。しかし、最終日の5位決定戦では、前半大きくリードされながらも攻撃的なDFを軸に追い上げを見せ、ラスト1分相手の意表を突いたプレーで逆転勝ちを収めることができました。試合を見ていた他校の先生が「東邦らしい試合だった」と一言、決して上手くはないが粘り強く最後まで諦めないということのようです。

まだまだ足りないことばかりですが、県大会では目標を達成し、東邦らしい試合ができるよう頑張ります。最後になりますが、大会を通じて会場でご声援をいただきました保護者の皆様、いつもありがとうございます。



新チーム初の公式戦に出場したハンドボール部

大学／行事・クラブ活動

男子サッカー部が1部昇格

創部22年目で悲願かなう



1部昇格を喜び合う男子サッカー部員たち(10月21日、岐阜聖徳学園大学サッカー場)

2023年度東海学生サッカー2部リーグ戦で愛知東邦大学男子サッカー部が1部リーグ昇格を決めました。2022年、やはり1部昇格を決めた硬式野球部同様、創部22年目での悲願達成でした。東海学生サッカー連盟規約で2部リーグ上位2チームが1部に自動昇格することになっており、愛知東邦大学は10月21日の最終戦で岐阜聖徳学園大学を2-1で下し2位を決めました。愛知東邦大学は11月から始まった第3回同リーグ新人戦でも1部リーグ強豪校と互角に戦い堂々3位に輝きました。

理事長、学長に昇格を報告

男子サッカー部は10月26日、榑直樹理事長、鵜飼裕之学長を訪れ、1部昇格を報告しました。訪れたのは石渡靖之総監督(人間健康学部教授)、マネージャーの伊藤大智さん(人間健康学部3年)、山崎楽久キャプテン(同2年)、岡田結希選手(同1年)、松永凌選手(同3年)、広報担当の栗林諒さん(同2年)です。



榑理事長、鵜飼学長に1部初昇格を報告(10月26日)

榑理事長は「とうとうやってくれました。最後の試合を見に行けずネット速報で見守っていましたが、素晴らしい勝利でした。1部リーグでは、監督のもと、しっかりチームづくりをしてもらって頑張ってください。大きな大学、伝統や歴史のある大学を相手にしての1部昇格です。愛知東邦大学の歴史はまだ23年ですが、よくぞやってくれたと思います。本当に素晴らしい成果を出してくれました。ありがとう」と選手たちの快挙を称えました。

鵜飼学長も「本当におめでとう。1部に定着できるよう、チームワークをさらに高めて頑張ってください」

と選手たちを祝福しました。

山崎キャプテンは「新チームが始まった時から監督、石渡先生が、絶対昇格すると鼓舞し、選手たちの練習や試合に取り組む姿勢も昨年とは全然違いました。すごいまとまりでした。来年も引き続きキャプテンとして、チームを引っ張っていきます」と来季への決意とともに報告しました。

石渡総監督は1部リーグの戦い方について、「2024年シーズンからは、2023年までと方式が変わり、12チーム総当り戦が前後期と続きます。2部は10チームで18試合でしたが、1部では12チームで2試合ずつ計22試合。2部リーグでは経験したことのない環境で、静岡など県外遠征も増えます。現状として部員数も少なく他校に比べて限られた戦力なので、けがに注意しながら、コンディショニングを第一優先でリーグ戦を戦っていききたい」と話しています。

創部は開学2年目

男子サッカー部は開学2年目(当時は東邦学園大学)の2002年4月に創部しました。経営学部しかない時代で、「サッカー部がないのなら自分たちで創ってやろう」と、同年入学の望月崇伸さんが中心になっての創部でした。望月さんは名古屋グランパスユースでプレーし、日進西高校卒です。



2期生たちが創部した男子サッカー部

望月さんは「初代監督は大学職員で東邦高校時代にサッカー部員だった増田貴治さんにお願ひし、部員集めに奔走しました。幸運だったのはサッカー経験のある松井慶太君、江崎誠君(2人とも卒業後は母校の大学に職員として就職)」という力強い同期生が創設メン

パーに加わってくれたことです。1年生だけで約20人が集まり船出することができました」と振り返ります。

グラウンドもない、サッカーボールも十分にそろわないまま体育館やS棟横テニスコート(現在のC棟クラブ室付近)での練習。8月になって尾張旭市や守山区の市営、企業グラウンド、中学校校庭を借りて練習に取り組みました。送迎バスもなく、移動は全て車に乗り合うなど自前でした。

9月から始まった愛知県学生リーグ戦(東海3部リーグ)の初戦では愛知大学名古屋校に2-5で敗退。愛知学院大Bに0-6、名古屋外国語大に1-3と敗れ3連敗。4戦目の名古屋市立大に3-2で初勝利しました。部長の小野隆生教授は「東邦キャンパス」86号(2003年1月10日)に「その時の選手たちの嬉しそうな顔を忘れることができない」と書いています。

8年越しでの2部昇格



2010年12月には2部昇格決定(「邦苑」32号表紙より)

2部昇格を決めたのは2010年12月でした。当時、3部にあたる愛知県学生リーグには12チームが加盟。2位以内に入ればチャレンジリーグ(東海大会)に進み、愛知県代表の2校、三重県・岐阜県代表1校、静岡県代表1校の計4校で総当りのリーグ戦を行います。2部リーグ昇格をかけた入替戦はチャレンジリーグ1位、2位と2部リーグ10位、9位がホーム&アウェイの2試合を戦いました。

チャレンジリーグ2勝1敗で2位の愛知東邦大学は2部9位の愛知工業大学との入替戦を戦い、連勝して2部昇格を決めました。後援会誌「邦苑」32号(2011年3月発行)が8年越しでの「2部昇格」を紹介しました。「愛知東邦大学の入替戦は2010年度で3回目でしたが、対戦相手は3度とも愛知工業大学。リベンジするという気持ちで選手、スタッフ一丸となって入替戦に臨み2連勝して見事昇格を果たしのです」。

1部昇格へさらに13年

2部リーグに昇格した愛知東邦大学が初めて挑んだ2011年度シーズンは18試合を戦い7勝10敗1分、勝点22。10チームで中7位に終わりました。「邦苑」33号に

は、「体力的にも精神的にも愛知県リーグよりレベルが高く、通年で戦っていく難しさを痛感しました」と書かれています。

2021年シーズンから石渡靖之総監督のもと、元名古屋グランパスエイト選手・コーチの氏原良二監督体制がスタート。コロナ禍で9試合に日程短縮された同年は6勝2敗1分で3位に終わりました。2022年は18試合を消化し前年と同じ3位に終わったものの1部リーグ昇格枠である2位以内を射程にとらえたシーズンでした。

「あと1勝」まで迫った最終戦は11月19日、名古屋経済大学犬山キャンパス サッカー場で午前10時キックオフ。選手の家、榎直樹理事長、船木恵一副学長ら教職員や学生ら大勢が応援に駆け付けました。息子の陽介さんが6年前に卒業したサッカー部OBだという増井誠さんは午前7時前に浜松市の自宅を出発して応援に加わりました。増井さんはスケッチブックに「東邦ガンバレ」「1部昇格」「あきらめない」「いぞ東邦」などのメッセージを書き込み高々と掲げて応援を続けていました。

増井さんは「今年は息子たちが果たせなかった夢がいよいよ叶うのではと思い駆け付けましたが残念。選手たちはきょうの悔しさを忘れず、ぜひ1部昇格を果たしてほしい」と選手たちにエールを送っていました。それから1年、男子サッカー部は増井さんのエールに見事応え、1部昇格を決めました。

男子サッカー部 2部昇格以降の戦績

年度	順位	成績		
2011	7位	18試合	7勝10敗1分	勝点22
2012	3位	17試合	9勝5敗3分	勝点30
2013	5位	18試合	10勝6敗2分	勝点32
2014	6位	18試合	6勝11敗1分	勝点19
2015	6位	18試合	8勝7敗3分	勝点27
2016	7位	18試合	5勝11敗2分	勝点17
2017	4位	21試合	8勝8敗5分	勝点29
2018	7位	21試合	4勝15敗2分	勝点14
2019	4位	18試合	9勝6敗3分	勝点30
2020	4位	8試合	5勝3敗0分	勝点15
2021	3位	9試合	6勝2敗1分	勝点19
2022	3位	18試合	12勝4敗2分	勝点38
2023	2位	18試合	13勝2敗3分	勝点42



浜松から応援に駆け付けた増井さん(2022年11月19日、名古屋経済大学で)

異文化経験から学びの広がりを —愛知と沖縄 両学生への期待—

沖縄大学教授 キャリア教育担当 島袋 隆志

愛知東邦大学と沖縄大学とは9月14日、大学間連携に関する協定書に調印しました。今回、沖縄大学の島袋隆志教授より、特別にご寄稿を頂きました。

はじめに

愛知東邦大学の皆さん初めまして。この度、貴学と沖縄大学とで連携協定が結ばれました。両学は、名古屋市と那覇市というともに県都、中心市街地に立地する環境面で似ている点があります。同時に、歴史、文化、そして経済社会面で違いがあります。そんな両地域の「相似性」と「相違性」とを知り、多様な学びにつなげていける機会が生まれたことに大きな期待を抱いています。

相互交流での学びへの期待

皆さんは沖縄にどのようなイメージをお持ちでしょうか。「青い空、海、そこでの自然と触れ合う生活」や「大家族での生活や触れ合いやすい人柄」などでしょうか。その一つひとつは正解であると同時に、実際には少しずつ違いを持っていたりします。同じように沖縄から見た愛知へのイメージも正解あり、そうでなかったりすると思います。両学の学生どうしが、そうした相互の特徴を学ぶとともに、直接に感じることでできる機会を持つことで、皆さんと共に学びの輪を広げていきたいと考えています。



本島南部「具志頭の浜」
(沖縄大学から車で約30分)

学びの広がり

そうした「学びの広がり」は、単に教室の中でのみ生まれるものではありません。たとえば、身近な地域の歴史でも、テキストで学んだ内容を現地で解説され、直接に触れることで、そこで何があったのかをより具体的にイメージすることができ、そうした知見は自己に内面化された知識となります。フィールドワークにはそのような学びを導き出す効果があります。

沖縄大学での各ゼミや講義では、沖縄の歴史文化や平和学習として戦争遺跡や資料館、そして地元企業の見学や、市町村の調査補助などのフィールドワークが盛んに行われています。そうした活動は、友人関係を広げグループでのディスカッションを深め、新しい知見を自己に取り入れ内面化することにつながります。今回の両学での協定が、両学生が自分の生まれ育った

領域を超えた見聞や経験、そして対話から「自分の常識」の殻を破り、学びを広げる機会となるよう期待しています。



夏期集中講義「企業実習」の体験報告会
(沖縄大学)

愛知と沖縄との違いからの学び

そうした機会として、たとえば、両県の県内総生産のうち製造業の割合を比較すると、愛知県の35.7%は沖縄県4.5%の約8倍の高さとなっている違いをどのように考えるのか(2020年度)。また、そんな「ものづくりの愛知」というイメージに対して、「豊かな自然」という沖縄のイメージからは、そこから享受されるはずの農林水産業の割合は沖縄県の1.0%と愛知県の0.4%とで同程度の低さからは何を学ぶことができるでしょうか。これは、沖縄でも地元で収穫された農林水産物よりも県外、海外からの移入・輸入された食料品に大きく依存していることを表しています。こうしたイメージと現状との違いやその要因などを実際に見聞きし合うことで、自分の生まれ育った土地や、そこでの慣習によって作られる「自分の常識」を、時に異なる地から視点を変えてみることで「自分の殻を破る」機会にしてほしいと願っています。

そんな貴重な時間を、両学の学生の皆さんと一緒に過ごすことができるのを楽しみにしています。

韓国2大学と包括連携協定を締結

地域・国際交流課長 安井 文康

愛知東邦大学は韓国の2大学と教育交流を深める包括連携協定を締結しました。愛知東邦大学と海外大学との提携は、今回の2校を加え21校になりました。

両校との協定は、コロナ禍での渡航制限のあった2022年度にそれぞれ国際郵便により仮協定が結ばれましたが、コロナ規制の緩和により渡航訪問による協定式が実現しました。協定締結により、お互いの学生の受け入れ、送り出しなど学生間の交流、教職員の交流などが期待されます。

締結当時、啓明文化大学校では、サマースクールにイギリスの大学生23人、佐賀県の大学生20人が参加していますがその中に本学の荒木伽弥さん(経営学部地域ビジネス学科4年)も参加していました。荒木さんは研修生たちからは「姉さん」と呼ばれ、とても慕われていたのが印象的でした。韓国語の習得能力も非常に高く、コミュニケーション力も素晴らしいとのこと、先方の先生方からも非常に高評価を頂きました。

1948年8月創立の安養大学校はソウル市に近い人口

62万の安養市にある大学で学部生は約5000人、大学院生は約700人の総合大学です。学部には、神学、人文、社会、理工、音楽、教養があり、近い将来、日本語学の開設をめざしています。また2月には、研修生の相互受け入れも予定しています。

これを機会に本学の学生、教職員との交流がさらに活発になればと期待しています。

「飛翔」をテーマに第58回和丘祭を開催

大学祭実行委員長 酒井 来実(教育学部2年)



FREE STYLEによるダンスパフォーマンス

2023年度の和丘祭は、新型コロナウイルス以降、昨年度に続き対面による開催ができました。テーマは学園100周年テーマである「はばたき新時代へ」を基に、「飛翔」としました。

今年度は、在学生を含む来場者数を増やすことを目標に準備しました。地域の方々にも気軽に来て頂けるようなものとなるよう内容を検討し、地域のご協力を得てリーフレットを事前に配布頂くこともできました。

2日間とも天候に恵まれ、大きなトラブルもなく無事に終了できました。地域の方々には昨年度以上に来て頂きましたが、在学生の参加人数を増やすことは出来ませんでした。来年度は更に東邦らしい大学祭を開催できるように頑張っていきたいと思います。

硬式野球部が1部リーグ初のAクラス2位



シーズン終了あいさつに訪れた硬式野球部員たち

硬式野球部は2023年の愛知大学野球秋季リーグ戦を7勝6敗(勝ち点3)で終え、2022年秋季の1部リーグ昇格から3季目での初のAクラス2位となりました。

硬式野球部は10月26日、榊直樹理事長、鶴飼裕之学長を訪れ、リーグ戦報告を行いました。訪れたのは田中洋監督、深谷和広部長(経営学部教授)と4年生の松吉颯生主将(人間健康学部)、投手の玉井裕一郎選手(経営学部)、主務の真柄直人(人間健康学部)、3年生の毛利水樹選手(同)、2年生副主務の樋口一希(同)、1年生マネージャーの樋口優歩(同)のみなさん。

田中監督は「もう1試合勝てれば優勝というところでしたが、チームは4年生を中心に結束し、いい試合を毎試合やってくれました。選手たちの努力が試合ごと随所に出て、私自身、試合中に感動する場面もありました」と報告しました。

榊理事長は「皆さんは愛知東邦大学の新しい1ページを描いてくれました。本学にとっては歴史的なことだと思います。来季も新しい歴史のページを描けるよう頑張ってください」と選手たちの健闘を称えました。

10試合に登板し5勝4敗の成績を残した玉井選手には愛知大学野球連盟から敢闘賞と最多勝利賞が贈られ、10月21日、パロマ瑞穂球場で表彰式が行われました。表彰式では本塁打1本を含む打率3割2分6厘と攻守で活躍した青木柊斗選手も外野手としてベストナインに選ばれ表彰されました。

女子バスケットボール部が入替戦に勝利し2部残留を決める

9月3日から11月5日にかけて第94回東海学生バスケットボールリーグ戦が開催されました。本学女子バスケットボール部は今年度2部に昇格し、上位進出を目指し大会に臨みましたが、前半戦での相次ぐ主力の怪我により苦しい戦いを強いられました。それでも離脱した選手の分を全員でカバーすることで、最終戦では2部リーグでの初勝利に繋がりました(結果：1勝9敗、6チーム中5位)。

11月11、12日に開催された入替戦(2試合制)では3部リーグ2位の愛知教育大学と対戦しました。絶対に負けられないというプレッシャーの中、ディフェンス、リバウンドからリズムをつかみ2試合共に勝利し、見事2部残留を決めることができました。

キャプテンのコメント(経営学部3年小島思穂さん)

2部に上がって初のリーグ戦は負け続きでした。今までとは違うフィジカルとスピードを目の当たりにし、悔しい思いを沢山しました。ですが最後の同朋戦ではチーム一丸となり勝利を収めることができました。また2、3部リーグの入替戦では、しっかりと勝ち切り2部リーグに残留することができました。ここからは4年生が抜け新チームとなります。更に上を目指して頑張っていきますので応援よろしくお願ひします。

杉本八段招き「才能」を考えるシンポジウム

大学地域創造研究所



シンポジウムで講演する杉本八段(11月11日、LCホールで)

第58回和丘祭開催中の愛知東邦大学で11月11日、将棋八段の杉本昌隆さんが「師匠が語る弟子・藤井聡太という才能」のテーマで講演しました。21歳2か月で前人未踏の八冠を制した藤井さんを育てた師匠の講演とあって会場のLCホールでは100人近い来場者が講演に聞き入りました。

杉本さんの講演は地域創造研究所主催のシンポジウム「輝け！みんなのチカラ～『才能』を見守る、伸ばす、磨く。～」の中で行われ、インターネットによるライブ配信も行われました。地域創造研究所所長の上條憲二経営学部教授の進行で午後2時から始まり、鶴岡裕之学長が開会のあいさつを行いました。

藤井さんの才能と強さについて杉本さんは、①当たり前と思われることに疑問を持ち自分で考える力②苦手を作らず得意も作らず、今の環境で最善を尽くす客観力③勝ちから学ぶ姿勢——などをあげました。「藤井君にはおばあちゃんが初めて将棋を教え、藤井君はそれで将棋の楽しさを知りました」とも指摘しました。

杉本さんに続き、パネリストの教育学部の堀建治教授(幼児教育)が「子どもにとっての『遊び』の意味と大切さ」、水野伸子教授(音楽心理学)が「才能を育む音楽」のテーマで25分ずつ講演。3人によるパネルディスカッション



3人によるパネルディスカッション

も行われました。閉会にあたり榊直樹理事長は、「好きこそものの上手なれという言葉がありますが、まさにそういうことなんだなと思いました。杉本先生のお話から、大人の感覚で答えを言うことで子どもの成長を妨げてしまうこともあるのだ

と思いました。いかに子どもたちの才能を伸ばしていくかを考えるうえで大変素晴らしい機会を与えていただきました」とあいさつしました。



閉会のあいさつをする榊理事長

子どもの個性を大切に

教育学部教授 堀 建治

本シンポジウムでは「遊び」を基軸として、子どもの「才能」について幼児教育の立場から提言した。子どもは「遊び」を通じて様々な能力を身に付けてい

く。ここでいう能力とは発達の観点からの能力であり、特定の、あるいは個別の能力を指すものではない。その能力を包括する言葉を「才能」とするならば、「才能」とは特別なものではない。杉本八段の言を借りるならばそれは「個性」である。杉本八段の弟子である藤井聡太八冠も将棋界では超人的な「才能」の持ち主である。特に我々大人は、子どもに過度な期待を抱くことが多々ある。我々大人は「個性」を大切にすることが子どもの健全な成長につながるものと認識する必要があるのではないか。



「好き」というエネルギーを原動力に

教育学部教授 水野 伸子

音楽的感覚や能力を身につけていく道筋を実験的に調べた発達研究から、子どもの音を介した興味・関心は年齢によって異

なり、それをきっかけに展開される体験も全く違った内容になることを紹介した。子どもは他者との関わりの中でまると育つ。しかし、興味・関心の重みづけは個人によって異なり、興味に裏付けられた体験の深度を増すことで個々の才能は育まれていく。「好き」というエネルギーの大きさが才能の鍵を握っているのかもしれない。杉本八段のユーモアにあふれたお話は、弟子に対する温かな眼差しと朗らかな人間性が滲み出て、自律思考を尊重し教えすぎない指導法など大学教員として学ぶことが多くあった。



スポーツを通じた教育・研究・社会貢献を推進

学園スポーツ・文化振興局

スポーツ・文化振興局は、今年度も、愛知東邦大学人間健康学部、及び学内サークル「スポーツ・健康×まちづくり部」とともに、名東区において各地域でのスポーツイベントを各種実施しました。

一つ目は、昨年度も実施した「スポーツチャレンジフェスティバル」の新たな小学校における実施です。今年度は香流小学校(9月10日)、引山小学校(11月26日)、猪子石小学校(12月10日)と、新たに3小学校で、学区の方々のご協力を頂きながら開催することができました。

二つ目は、「地域運動会再生プロジェクト」です。コロナ禍の収束により各種イベントが復活する中、学区で実施していた運動会を、学生と共に復活させようというものです。平和が丘学区では10月15日に予定されていたものの、残念ながら雨天中止となりましたが、10月22日には極楽学区大運動会が名東スポーツセンターで実施され、愛知東邦大学は人間健康学部中野匡隆准教授による大人向けの健康関連計測サービスと、昼休憩の時間を活用した「スマイルスポーツパーク」とを実施し、大いに盛り上げました。また、学生たちは学区運動会の運営スタッフも兼ねての参加で、準備体操では参加者の前で模範を示したりもしました。



極楽学区大運動会での準備体操

また、一つ目の企画との間を取るように、11月12日に藤森中学校で、昨年度実施した藤が丘小学校とともに、本郷小学校・豊が丘小学校と、3小学校学区合同での「スポーツチャレンジフェスティバル」を、一部学区では地域運動会に代わるものとの位置づけで実施しました。こちらも学区の方のご協力を得ての開催です。

三つ目は、「親子で楽しいスポーツ体験教室」の開催です。90分で体育館のみというコンパクトな実施内容、対象を未就学児から小学校3年生までと低めに設定し、体を動かすだけでなく知育玩具でも遊べるようにしたり、保護者の方も計測やストレッチ等で楽しめる内容にしたりと工夫を凝らし、藤が丘小学校、極楽小学校、平和が丘小学校の3小学校で各2回行いました。

いずれも、「スポーツ・健康×まちづくり部」が企画段階から主体的に参加し、人間健康学部を中心とした当日参加の学生スタッフとともに作り上げることができたものです。彼らの成長ぶりにも感謝です。



藤が丘小学校での「親子で楽しいスポーツ体験教室」の様相

「スポーツ・健康×まちづくり部」代表

人間健康学部2年 林 空生さん

スポーツ・健康×まちづくり部は2023年度正式なサークルとして活動を始めました。主な活動としては名東区の地域の皆さんと連携しながらの、様々なスポーツイベントの企画と実行です。昨年度は3学区のみでしたが、今年度は8学区で11回開催した他、モルック普及など、名東区の活動のお手伝いも行いました。そのたびに、地域の方とともに学びや課題や反省点などを見つけ、次のイベントに活かしていきました。

活動を通して一番感じることは、当日一緒に運営してくれた仲間一人ひとりの成長です。回数を重ねることで学生自身も運営の仕方などを学び、指示を出さなくても自ら行動できる学生が増えてきたと思います。

この活動は今後も地域と大学が連携して継続させていくことが大切です。私たちスポーツ・健康×まちづくり部とともにスポーツを通してより良い地域を創り上げていきませんか。一緒に活動するからこそ得られるものは、たくさんありますよ。

さらに、これらの活動を名東区のまちづくりに繋げるべく、前号でご紹介した五者(名東区、同区体育協会、同区スポーツ推進委員連絡協議会、同区小中学校長会、東邦学園)による連携協定に基づき、人間健康学部松村雄樹講師による「名東区民のスポーツ・健康に関する意識調査」を実施するとともに、「名東区スポーツ・健康×まちづくり協議会」の設立準備にも着手しました。設立準備委員会では、有識者の方々のご意見を聞きながら、「思わず体を動かしたくなるまちづくり」を目指して、産・官・学+地域それぞれがどのような役割を果たすことができるか、議論を進めています。

フレンズ・TOHO2024年の行事予定について

今年度のフレンズ・TOHOの行事につきまして、6月23日(金)に総会を開催し、ご参加いただいた皆様には前野隆司氏による講演を聴いていただくことができました。

今後の行事につきましても、本会の活動の趣旨を重視し会員の皆様に還元できるものを開催してゆきたいと考えております。

今後、以下の行事を予定しております、会員の皆様におかれましては是非ともご参加いただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

●講演会と名刺交換会

日時：2024年2月9日(金)13:30から

場所：名古屋ガーデンパレス

講演会講師：株式会社アビリティトレーニング

代表取締役 木下 晴弘氏

●年次総会

日時：2024年6月28日(金)

場所：名古屋東急ホテル

講演会講師：交渉中

東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は2023年に創立100周年を迎えました。更なる100年に向けて、東邦高校は「目指す生徒像」を掲げ、「自分で考え自ら行動する生徒 他者と共に歩む生徒 強い心で挑戦する生徒の育成」に努めます。愛知東邦大学は「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のもと、「人材育成と学術で地域社会の活力を生む創発大学として新たな時代を切り拓く」ことを掲げ、個別重視の「テラーメイド教育」に力を注いでまいります。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願ひ申し上げます。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願ひいたします。

◇募金目標額 5億円

◇募金の主な用途

教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】

2021年11月から2026年3月まで

個人：1口 5千円、法人：1口 10万円

複数口のご協力をお願ひ致します(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

【百年レング募金】

※原則、高校同窓生・在校生対象

2021年11月から当分の間

個人：1口 5万円

アルファベットによるご芳名と卒業回数をレングに刻印、高校正面玄関横に設置させていただきます。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申込み下さい。

募金に関する学園Webページ：

<https://www.toho-gakuen.jp/donation>

